

# 東上総教育事務所だより



熊野の清水(長南町)



九十九里浜

〒297-0024 茂原市八千代 2-10

千葉県教育庁東上総教育事務所

TEL 0475-23-8125 FAX 0475-25-3143

第5号 令和4年2月4日(金)発行

## 「令和3年度 学力向上交流会」～東上総開催～

今年度の学力向上交流会は、「ちばっ子の学び変革」推進事業検証協力校である東金市立鶺嶺小学校、いすみ市立大原小学校、茂原市立富士見中学校の実践報告、授業づくりスーパーコーディネーターによる模範授業等を紹介した動画を視聴し、アンケート結果を共有することで、各学校の実践に生かせるようにしました。動画を配信することにより、例年より多くの先生方の参加が可能になり、視聴後に感想を伝え合ったり、校内研修等で共通理解を図ったりすることができました。

鶺嶺小学校からは、「自ら考え、表現する児童の育成」を目指し、目的に応じ、表現を工夫して書く国語科の実践について、大原小学校からは、「自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童の育成」を目指し、ふきだしを活用し、学習を振り返る算数科の実践について、富士見中学校からは、「数学的な見方・考え方の育成」を目指し、関数領域における事象を数学的に解釈し、説明する数学科の実践について報告していただきました。目の前の児童生徒の実態から方策を考え、実践する過程で評価・改善を重ね、次の学習につなげること、また教職員が一丸となって校内研修に取り組むことの大切さを再確認することができました。

また、授業づくりスーパーコーディネーターによる模範授業では、『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』に示された4つの学習過程におけるポイント、発問や指示の意図を分かりやすく解説していただきました。その他、板書の仕方や児童生徒に対する教師の対応の仕方等、授業で大切にすべきことを具体的に示していただきました。

各学校からは、「全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善につなげるためにどのような取組をすればよいかについて参考になった」「授業づくりスーパーコーディネーターの見通しのもたせ方、交流の視点、自分の言葉で学習のまとめを書く方法等の実践が参考になった」「千葉県の施策を全員で再確認することで、学力向上に向けての意識を高めることができた」等の感想が寄せられました。動画配信という新たな形での学力向上交流会となりましたが、今年度の実践報告や模範授業から得られたことを共有し、各学校で組織的な授業改善が行われることを期待しています。

### 教育課程特例校（グローバル科）

### 横芝光町立横芝小学校

横芝小学校は、平成31（令和元）年度から3年間、文部科学省から指定を受け、「教育課程特例校」として研究に取り組みました。「地域に根を張り、世界へ羽ばたける力をもつ児童の育成～グローバル科（ET・GLT）の実践を中心として～」を研究主題として、地域を知り、地域に根を張ることができる学習内容・活動に取り組みながら、世界へ視野を広げ、世界の舞台でも主体的に活躍できる意欲や実践力をもつ児童の育成を目指し、活動してきました。取組の軸となるグローバル科では、ET（イングリッシュタイム）とGLT（グロータイム）を核としながら他教科とも関連付けた取組がなされてきました。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインを活用した動画配信による公開研究会を行いました。記念講演では信州大学学術研究院教育学系の青木一准教授からグローバル科の目標等についての話をいただきました。また、動画配信では6つの授業展開の様子が配信されました。ETでは全身を使って英語と触れ合いながら学ぶ姿やゲームを楽しみながら自然に英語が身に付いている姿が見られました。GLTでは地域の身近な事象の中から問いを見だし取り組む姿やICT機器や思考ツールを活用した授業を見ることができました。どの授業展開も目指す児童像に向けた取組となりました。



2年 ET



4年 GLT

## 教育事務所より（訪問を振り返って）

### 総務課

日頃から総務課の業務に御協力いただきありがとうございます。総務課では、主に給料・手当の諸表簿の確認をさせていただくことにより、書類の不備をなくし、適正・正確な事務処理の推進を目標にしています。諸表簿を確認した結果、校長会議や給与事務担当者会議の際にも説明させていただきましたが、一部の学校で誤った事務処理による戻入や追給、通勤手当、扶養手当、住居手当の認定簿の記載誤り、受付印漏れ、書類の添付漏れがありました。これらの不備は、よく確認することにより防ぐことができますので、繰り返しの確認をお願いいたします。

また、事前によく確認され、ほとんど誤りのない学校や各手当の認定簿に一覧表をつけて、見やすく整理してある等、手当の認定に誤りが出ないように工夫されている学校もありました。

訪問の際に、各地域で共同実施が月1回以上行われ、認定手当や実績手当について相互に確認していただいていることや、全体として共同実施や近隣事務職員で、経験の浅い事務職員や臨時的任用の事務職員の支援をしていただいている状況の確認ができました。

今後も、適正・正確な事務処理の徹底を図って参りますので、御協力をお願いいたします。

### 管理課

コロナ禍における令和3年度の学校訪問は、授業展開や訪問者数を減らす等の感染防止対策を施しながら行いました。9月に緊急事態宣言を受けて実施できなかった学校訪問については、諸表簿点検と安全点検等を行う形で、東上総管内すべての学校を訪問することができました。各学校におかれましては、御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。

その中で、管理課として感じたことは以下のとおりです。

1点目は、学習環境についてです。老朽化している校舎においても、清掃や整理、除草等が行き届き清潔感があるとともに、校舎内外の環境がよく整備されていました。特に、空調設備が整備され、子供たちは快適な環境の下で学習できるようになっていました。また、マスク着用や換気はもちろん、消毒、機の配置等、様々な新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策がなされていました。

2点目は、児童生徒の学習状況についてです。多くの学校が落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されており、教職員と児童生徒の信頼関係が築かれている学校が多く見られました。一方で、特別な支援を必要とする児童生徒が通常学級の中でも多く見られましたが、各教育委員会による支援員の配置、ケース会議の実施等による学校への支援により、学級担任一人に任せることなく、学校全体で組織的に対応されている様子が見られました。

3点目は、人材育成、特に若手育成についてです。ベテランと若手を組ませた学年配置、若手教員を対象とした若手塾等、若手研修の取組が多く見られました。若手教員には、力量のあるベテランの先生の授業を積極的に参観させていただき、板書を写真に撮って自分の板書と比べたり、教室の環境づくりを共有したりする等、ベテラン層からそのノウハウを習得することを続けていってほしいと思います。

最後に、働き方改革についてです。会議のペーパーレス化、部活動時間の短縮等、各学校での様々な対策が見られました。しかしながら、各学校の在校等時間について、ひと月あたりの正規の勤務時間が80時間（いわゆる過労死ライン）を超えている教職員が多い学校がありました。教職員の勤務時間の適正な管理という意味でも、実態の把握をきちんといただき、なぜ、超過勤務になってしまうのか、どうすれば、解消に向かうのかを管理職はもちろん、全職員で検討する時期に来ていると考えます。

「すべては子供たちのために」のスローガンの下、一人一人が学校経営参画への工夫と改善を加えながら、来年度も子供たちの健全育成に向けて取り組んでいきましょう。

### 指導室

学校経営については、家庭や地域との連携及び協働を深めながら「社会に開かれた教育課程」を意識したカリキュラム・マネジメントの取組が進められていました。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大のため、当初の計画どおりに進められず、多くの学校で教育課程や年間指導計画を柔軟に見直し、学びの保障に対応されていました。

学力向上については、「『思考し、表現する力』を高める実践プログラム」を活用した授業展開や授業の終末で、「自分の言葉で学習のまとめを書く」取組が行われている学校が多く見られました。今後、「全国学力・学習状況調査」の結果を詳細に分析し、さらなる授業改善や学力向上に取り組むようお願いいたします。

生徒指導については、いじめの積極的な認知に向け、定期的なアンケートや教育相談を実施した結果、認知件数も増加傾向にあり、いじめの早期発見、早期対応につながっています。今後さらに、SOSの出し方教育を充実させるとともに、組織的な対応、専門家の活用等で改善に取り組んでいただきたいと思います。

特別支援教育については、担当指導主事や特別支援アドバイザー等の派遣依頼が多数あり、校内研修や関係機関と連携した校内体制の充実が図られてきています。さらに、合理的配慮の提供について積極的に周知が図られています。通常学級と特別支援学級との交流及び共同学習の充実に向けて、各担任が連携し、計画的、組織的に継続した取組をお願いいたします。